

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.8.31 時点)

分類		保管場所	保管方法	エリア境界 空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比※1 (2018.9.6)	変動※2 理由	エリア 占有率	保管量※3／保管容量 (割合)	トピックス	
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01未満	3,000	m ³	+200	m ³ ①	91 %	180000 / 250700 (72%)	・フランジタンク解体片 2018年8月末時点でコンテナ780基保管。 エリアP1 コンテナ数：646基 (2015年6月15日～) エリアAAコンテナ数：134基 (2018年3月15日～)
		C	屋外集積	0.01未満	62,300	m ³	+600	m ³ ②③	98 %		
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400	m ³	0	m ³ —	85 %		
		J	屋外集積	0.01	4,300	m ³	0	m ³ —	53 %		
		N	屋外集積	0.01未満	4,500	m ³	0	m ³ —	45 %		
		O	屋外集積	0.01未満	43,500	m ³	微増	m ³ —	85 %		
		P1	屋外集積	0.01	48,900	m ³	+600	m ³ ②④	76 %		
		U	屋外集積	0.01未満	700	m ³	0	m ³ —	100 %		
		V	屋外集積	0.01	2,000	m ³	+400	m ³ ②⑤⑥	34 %		
	AA	屋外集積	0.01未満	4,400	m ³	微増	m ³ —	12 %			
	シート養生 (0.1～1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600	m ³	0	m ³ —	58 %	38200 / 71000 (54%)	・エリアWでの車両解体（プレス等）完了。(2018年1月)
		E1	シート養生	0.02	14,000	m ³	微増	m ³ —	88 %		
		P2	シート養生	0.01	5,500	m ³	微減	m ³ —	61 %		
		W	シート養生	0.04	8,100	m ³	+100	m ³ ②	28 %		
		X	シート養生	0.01	7,900	m ³	0	m ³ —	65 %		
	覆土式一時保管施設、 仮設保管設備、容器 (1～30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	16,000	m ³	+300	m ³ ⑦	100 %	19300 / 31700 (61%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・覆土式4槽の受入開始に伴い、保管容量（4,000m3）増加。 (2018年5月)
		A	仮設保管設備	0.15	1,000	m ³	微減	m ³ —	14 %		
		E2	容器※4	0.02	300	m ³	0	m ³ —	19 %		
		F1	容器	0.01未満	600	m ³	0	m ³ —	99 %		
		Q	容器	0.04	1,300	m ³	-100	m ³ ⑧	22 %		
	固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物 貯蔵庫	容器※4	0.01	10,000	m ³	+200	m ³ ②⑨	22%	10000 / 45600 (22%)	・主な瓦礫類は、1～3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・固体廃棄物貯蔵庫9棟の運用開始に伴い、保管容量（33,600m3）増加。 (2018年2月)
合計（ガレキ）					247,300	m ³	+2,300	m ³ —	62 %		
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,200	m ³	0	m ³ —	63 %	96600 / 134000 (72%)	
		H	屋外集積	0.01未満	31,700	m ³	0	m ³ —	74 %		
		M	屋外集積	0.01未満	39,600	m ³	0	m ³ —	88 %		
		V	屋外集積	0.01	100	m ³	0	m ³ —	2 %		
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200	m ³	0	m ³ —	88 %	37300 / 41600 (90%)	
		T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100	m ³	0	m ³ —	94 %		
合計（伐採木）					133,900	m ³	0	m ³ —	76 %		
保護衣	屋外集積	容器	0.04	56,700	m ³	+1,300	m ³ ⑩	80 %	56700 / 71200 (80%)	・使用済保護衣等焼却量 4360t（2018年8月末累積） ・焼却灰（プラスチック含む）のドラム缶数 965本（2018年7月末累積）	
合計（使用済保護衣等）					56,700	m ³	+1,300	m ³ —	80 %		

※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。

※2 主な変動理由：①海洋汚染除去装置の除去工事 ②タンク関連工事 ③一時保管エリアP1から瓦礫の移動 ④金属パレット破砕業務 ⑤破砕物の受入 ⑥構内瓦礫保管 ⑦一時保管エリアAから瓦礫の移動
⑧瓦礫を固体庫に移動 ⑨一時保管エリアQからの移動 ⑩使用済保護衣等の受入

※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。

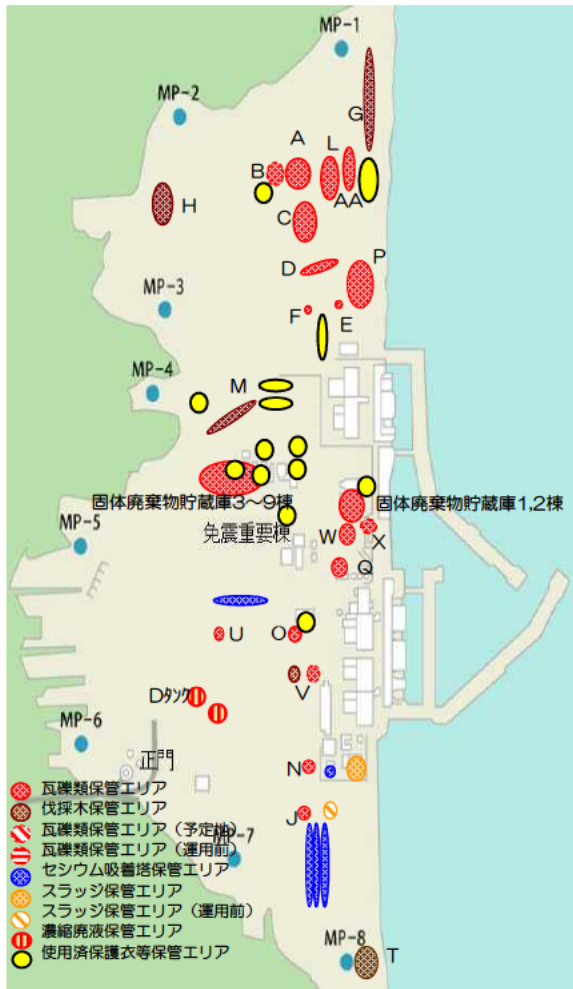
※4 水処理二次廃棄物（小型フィルタ等）を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.9.6時点)

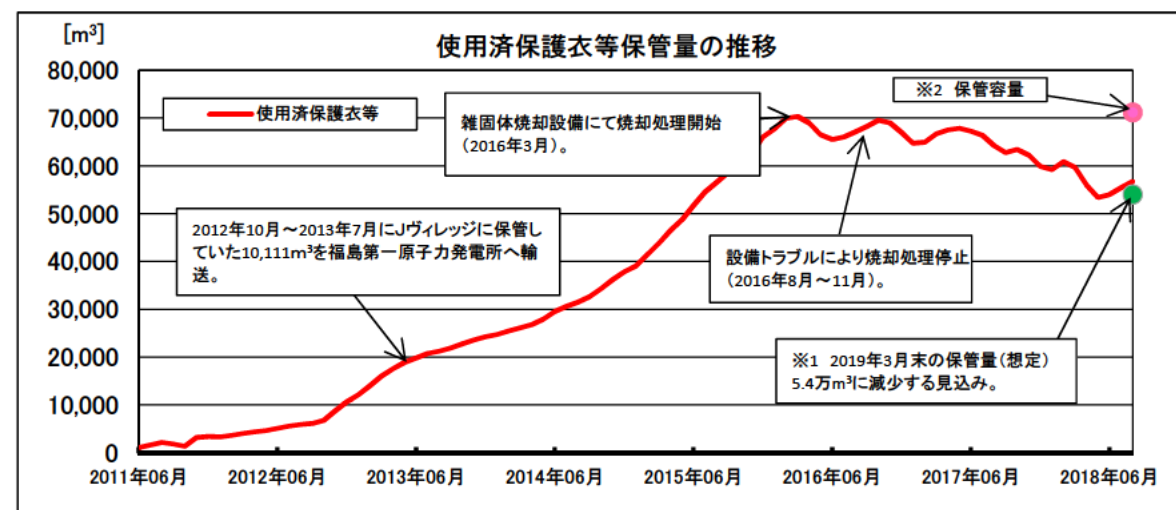
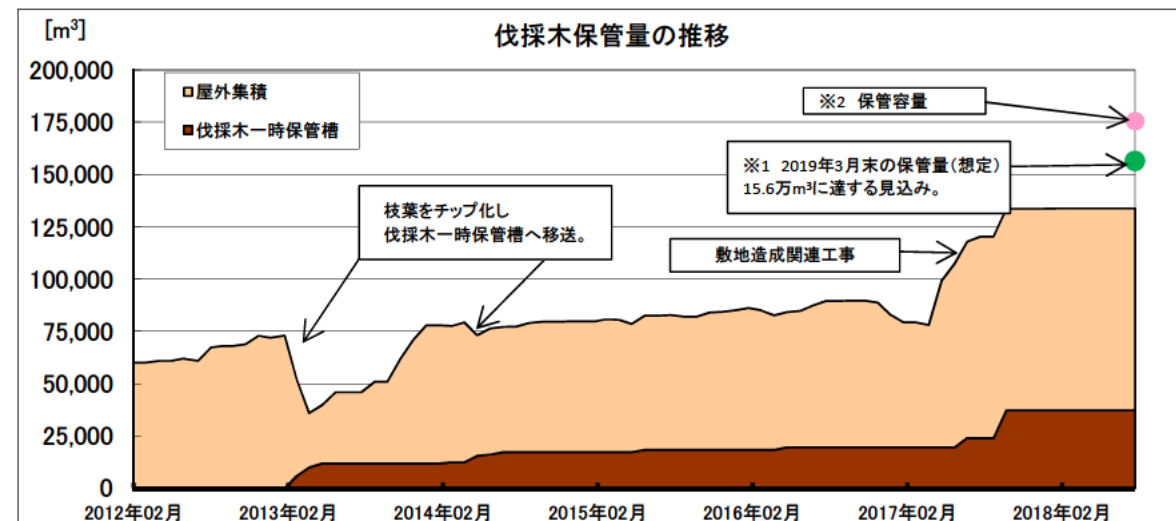
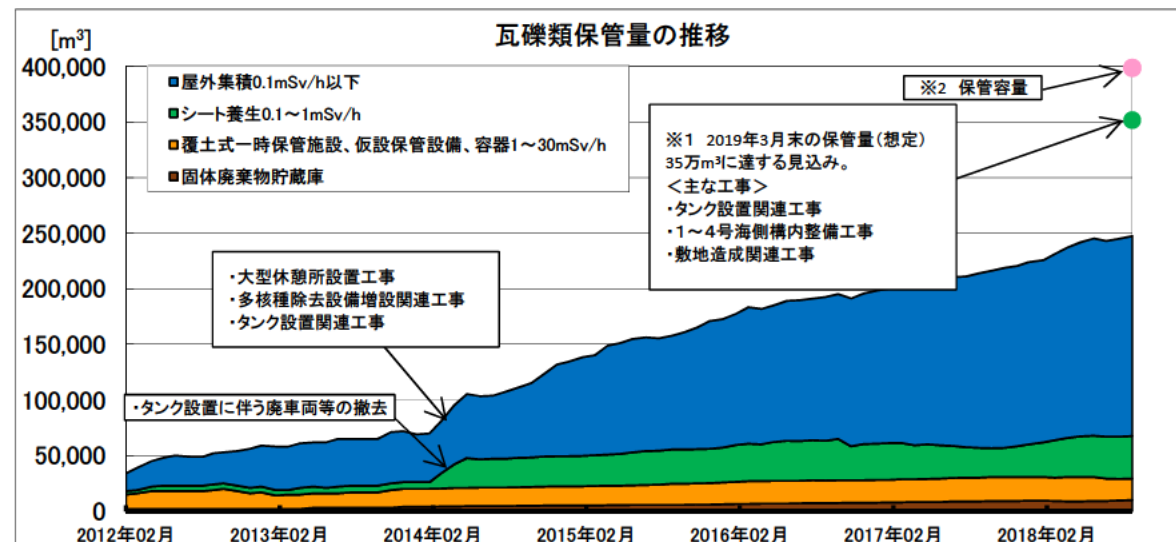
分類	保管場所	種類	保管量		前回報告比 (2018.9.6)		保管量／保管容量 (割合)	トピックス	
水 処 理 二 次 廃 棄 物	使用済吸着塔 保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	767	本	0	本	4090 / 6368 (64%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可（2015年12月14日） ・使用前検査完了（2017年5月26日）に伴う保管容量増（第四施設架台129塔分）	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	206	本	+2	本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,509 ^{※1}	基	+12 ^{※2}			基
			増設	1,322 ^{※3}	基	+19 ^{※4}			基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	高性能	74	本	0			本
		多核種除去設備処理カラム	既設	11	塔	0			塔
	モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類		201	本	0	本			
	廃スラッジ 貯蔵施設	廃スラッジ	597	m ³	0	m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。	
	濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,410	m ³	+11	m ³	9410 / 10700 (88%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。（現場パトロール異常なし） ・水位計0%以上の保管量：9310 [㎡] タンク底部～水位計の保管量(DS)：約100[㎡]	

※1：データ集計の間違い修正により、基数を訂正。【正】1,509基 【誤】1,501基 ※2：データ集計の間違い修正により、増減基数を訂正。【正】+12基 【誤】+4基（2020.3.4）

※3：データ集計の間違い修正により、基数を訂正。【正】1,322基 【誤】1,330基 ※4：データ集計の間違い修正により、増減基数を訂正。【正】+19基 【誤】+27基（2020.3.4）



瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.8.31 時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2018年3月26日認可)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.9.6時点)

